

Book Review



患者さんに喜ばれる 少数歯残存症例のトリートメント

永田省藏 著



Reviewer

北川原 健

(長野県・北川原歯科医院)

A4 判変, 184 頁
定価 13,650 円
(本体 13,000 円+税 5%)
医歯薬出版刊



私の友人には、ある本の書評執筆を頼まれた折に、依頼主に「ぶり」を一本送り届けて“難”を逃れた…という智者というか、謀略に長けた人物がいる。依頼主と送り主はご想像に任せますが、私にはそんな才覚もなく、これを書く羽目に陥った。

まず目についたのは表紙のデザイン。この著者が表紙にこだわりをもたないはずはない、と思って眺めてみるが、何を意味しているのかわからない。数日考えを巡らせたあげく、著者に直接聞いてみた。「表紙の絵は、デザイナーが作ったものに気に入ったのがありました。外冠内面の純金色が美しいと思って補綴物を AGC テレスコープに変えて自分で改変しました。しかし、モノクロにしたので金色はなくなりました。特にこだわりはありませんが、ちょっとカッコいいかな…と思い、これにしました」とのことだった。「AGC テレスコープは、その入り方が何ともいい感じなのです」と著

者から聞いたことがあったし、当院でこの方式を適応した一例の感触を思い出しながら、やっぱり AGC テレスコープへのこだわりは強いのだな、と感じた。

巻頭言から著者の意図を探ってみよう。

「第 1 編では、少数歯残存へのトライアルが、診療室における提供できるサービスの拡大をもたらし、…限られた本数の天然歯を大切に治療し、審美性と機能を回復するという、臨床医としての喜びを味わえる分野であることを、声を大にして伝えたいと考えた。第 2 編では、診査・診断、第 3 編では咬合位の設定法を、第 4 編では少数本のインプラントも含めた各種維持装置の使い方と作製法、第 5 編では手技としてのゴシックアーチ描記法、印象、咬合器付着、人工歯の選択といった手技的なことを、第 6 編では術後の評価とメンテナンスについて述べ、第 7 編では掲載した症例の設

計解説をした」と記載されている。

各編に記述されているノウハウから感じられるこだわりは並大抵のものではなく、手短にご紹介できる類のものではない。直に手にとって読んでいただく以外に手はない。

私が特に自戒も含めて心に残ったのは、特に第 7 編に紹介されている「手書きの技工指示書」である。私は日常臨床でここまでのことはできていない。著者は美術部の出であるので、絵を描くことが得意である。この書のなかで、「これは絵描きの発想だな」と思わせられる部分があくつかあったが、ここに絵付きで書かれている技工指示書を読み解けば、著者の「欠損補綴に対する思考回路」を解読することができる…と感じた。これを読むだけでも本書を手にする価値がある。インプラントをどう使っているのかも参考になろう。

じっくり読まれることを、特に若い歯科医師にお勧めする。